

審査意見への対応を記載した書類（6月）添付資料 目次

資料 1 3つのポリシー対照表 P2

資料 2 入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーとの対応表 P6

3つのポリシー対照表

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
<p>DP1. 思考力・判断力</p> <p>1) 人間や文化について幅広い知見を身につけることによって、マネジメントに必要な広い視野から柔軟に考え判断することができる。</p> <p>2) 幅広い知見に基づいて、時代と地域の課題を的確に捉え判断するための基礎的能力を有している。</p>	<p>CP1. 思考力・判断力を高める</p> <p>1) 自然・人文・社会・言語分野の「教養教育科目」による幅広い知識の融合を通して、マネジメントに必要な広い視野や人間の本質などに関する深い洞察力と柔軟な思考力を涵養する。</p> <p>2) 本学独自の学びの導入として「ふくしまに学ぶ(基礎)」により、地域貢献への意識を再認識し、実践的な学びの入口に立つとともに、「基礎ゼミナール」を通して大学での学びに必要な基礎力を高める。</p>	<p>1. 高校教育を広く学修し、マネジメントを学ぶために必要な思考力や判断力を一定程度有している。</p>
<p>DP2. 情報収集・分析力</p> <p>1) 新たな社会を見据えて広く現代社会に関心を持つとともに、マネジメントに必要な適切な情報収集力と客観的な分析力を修得している。</p> <p>2) ICT (Information and Communication</p>	<p>CP2. 情報収集・分析力をつける</p> <p>1) 新たな時代を見据えて現代社会を理解するために、「教養教育科目」を通してマネジメントに必要なさまざまな情報収集力と分析力を獲得する。</p> <p>2) マネジメントの基礎を獲得するためのアカデミックリ</p>	<p>2. ICT (Information and Communication Technology) やマネジメントに興味をもち、マネジメントに関する情報やその情報について考えることに関心を持っている。</p>

<p>Technology) を理解し、マネジメントに応用できる技術と能力とを修得している。</p>	<p>テラシーとしてICTに関するリテラシー科目を必修とするとともに、マネジメントに必要な経済統計やデータ分析などの科目を置く。</p>	
<p>DP3. 構想・構築力</p> <p>1) マネジメントに必要な専門基礎力をもとに、地域の課題を発見しその解決の方向性を想定する発見力と構想力を有している。</p> <p>2) マネジメントの専門的知見から、地域経営や地域政策に関する構想を具体的な提案として構築する力を有している。</p>	<p>CP3. 構想・構築力を育む</p> <p>1) マネジメントに関わる理論分野の学問体系を包括的に学修する入門科目として、「専門基礎科目Ⅰ、Ⅱ」を設け、経営学、経済学、政策学等の基礎科目を学び、「専門ゼミナール」によって課題解決の方向性を発見させる。</p> <p>2) 地域課題のマネジメントを専門的に学ぶために、地域の金融、企業経営、流通、交通経済等を学ぶ「地域経営」と防災・危機管理政策、公共政策、メディア、地域コミュニティ等を学ぶ「地域政策」の2領域を設定し、学生が目指す将来キャリアに応じて段階的に各論・応用科目を選択できるよう構成することで、地域課題に対する具体的な提案をできるようにする。</p>	<p>3. 高校教育をとおして、課題を探求しその課題について道筋を立てて構想・構築することに一定程度関心がある。</p>

<p>DP4. 表現力・コミュニケーション力</p> <p>1) 課題に対応した活動の価値を言語やモデルを通して伝え、マネジメントのための情報として表現し発信することができる。</p> <p>2) 課題に対応するための企画を動かすリーダーシップによって他者との相互理解をはかり、マネジメントに必要なコミュニケーション力を有している</p>	<p>CP4. 表現力・コミュニケーション力を身につける</p> <p>1) 現地での演習（「被災地フィールドワーク」「企業・行政・エクスターンシップ」「地域連携演習Ⅰ」「地域連携演習Ⅱ」「専門ゼミナールⅠ～Ⅲ」）によって、マネジメントをことばで説明する表現力・コミュニケーション力を培う。</p> <p>2) 学生参画対話型教育（アクティブラーニング）を通して、マネジメントに必要なリーダーシップや相互に理解する力を培い、コミュニケーション力へとつながる基本的な語学力を養成するために、マネジメントに関する実践的な語学科目を置く。</p>	<p>4. 高校教育をとおして基本的なコミュニケーション能力を身につけ、人的ネットワークへの理解があり、人と協働する姿勢を一定程度有している。</p>
<p>DP5. 実践力・総合力</p> <p>1) さまざまな課題の解決に取り組むために、人と物の資源を組織化するマネジメントの実践力を身につけている。</p>	<p>CP5. 実践力・総合力を培う</p> <p>1) 「ふくしまに学ぶ（応用）」によって体験的学修を取り込みながら、実社会における諸活動に結びつけ、「専門ゼミナール」を通して、的確な判断の基に課題解決の道筋を提案する実践力、総合力を培う。</p>	<p>5. 行動力と実行力を一定程度有している。</p>

<p>2) 状況を客観的に評価・修正し、組織に成果をもたらすために考え行動する総合的なマネジメントの実践技術と能力を身につけている。</p>	<p>2) 学びの成果を集約し、達成度を総合的に測る指標となる「卒業論文・卒業研究指導」を置く。</p>	
	<p>CP6. 厳格な成績評価を行う 学修成果は、各授業科目のシラバスに示した授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）にしたがい、中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等（以下「試験等」という）によって、到達目標と達成度に応じた厳格な成績評価を行う。</p>	

入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーとの対応表

選抜種別	選抜名称	選抜方法 (回数、出題範囲)	出願資格	出願書類	AP.1	AP.2	AP.3	AP.4	AP.5	【参照】アドミッション・ポリシー
推薦選抜	学校推薦選抜	①国語基礎問題 ②小論文 ③面接 (出願書類「志願者調査カード」により実施)	①高等学校または中等教育学校の全日制課程・定時制課程を令和5年3月卒業見込みで、本学専願の者 ②出身高等学校または中等教育学校における全体の評定平均値が「3.2以上」の者	調査書 推薦書 志願者調査カード 入学志願票 選抜票	国語基礎問題にて成績を評価 小論文の内容にて評価 面接内容にて評価 高等学校の評定を評価	小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	国語基礎問題にて成績を評価 小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	面接内容にて評価	<p>マネジメント学部は、持続可能な地域の創生と活性化に貢献する人材を養成する (DP) ため、本学における学びとして構築された教育課程と教授方法 (CP) を受け止め、自ら進んで学ぶことのできる人材を求める。その観点は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校教育を広く学修し、マネジメントを学ぶために必要な思考力や判断力を一定程度有している。 2. ICT (Information and Communication Technology) やマネジメントに興味をもち、マネジメントに関する情報やその情報について考えることに関心を持っている。 3. 高校教育をとおして、課題を探究しその課題について道筋を立てて構想・構築することに一定程度関心がある。 4. 高校教育をとおして基本的なコミュニケーション能力を身につけ、人的ネットワークへの理解があり、人と協働する姿勢を一定程度有している。 5. 行動力と実行力を一定程度有している。
	指定校推薦選抜	①国語基礎問題 ②小論文 ③面接 (出願書類「志願者調査カード」により実施)	①本学が指定した高等学校または中等教育学校を令和5年3月卒業見込みで、本学専願の者 ②本学が指定した基準を満たす者	調査書 推薦書 志願者調査カード 入学志願票 選抜票	国語基礎問題にて成績を評価 小論文の内容にて評価 面接内容にて評価 高等学校の評定を評価	小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	国語基礎問題にて成績を評価 小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	面接内容にて評価	
総合型選抜	総合型選抜 B日程～D日程	①面談 (2回) ②小論文	一般選抜の出願要件に加え、出身高等学校または中等教育学校における全体の評定平均値が「3.0以上」の者	調査書 (面談時提出の場合、不要) 志願者調査カード 入学志願票	面談内容にて評価 小論文の内容にて評価 高等学校の評定を評価	面談内容にて評価 小論文の内容にて評価	面談内容にて評価 小論文の内容にて評価	面談内容にて評価 小論文の内容にて評価	面談内容にて評価	
一般選抜	一般選抜A日程	①学力検査 (3科目) 【必須科目】 国語 (国語総合/古文・漢文を除く) 英語 (コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ/リスニングを除く) 【選択科目：以下より1科目選択】 数学 (数学Ⅰ・A・Ⅱ・B) 世界史 (B) 日本史 (B) 政治経済 (B) ②面接 (出願書類「志願者調査カード」により実施)	①高等学校または中等教育学校卒業者、および令和5年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年間の学校教育を修了した者 ③高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、令和5年4月1日に満18歳以上である者 ア.外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 イ.文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在学教育施設の当該課程を修了した者 ウ.文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程を修了した者 エ.文部科学大臣が指定した者 オ.高等学校卒業程度認定試験規則 (旧大学入学資格検定規程) により、文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験 (旧大学入学資格検定) に合格した者、又はこれと同等以上の学力があると認められる者	調査書 志願者調査カード 入学志願票 選抜票	学力検査にて評価 面接内容にて評価	面接内容にて評価	学力検査にて評価 面接内容にて評価	面接内容にて評価	面接内容にて評価	
	一般選抜B日程	①学力検査 英語 (コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ/リスニングを除く) ②小論文 ③面接 (出願書類「志願者調査カード」により実施)		調査書 志願者調査カード 入学志願票 選抜票	学力検査にて評価 小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	学力検査にて評価 小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	小論文の内容にて評価 面接内容にて評価	面接内容にて評価	